

令和元年度SPOD事業の定量的指標達成度一覧(案)

【上位目的】学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった  
「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出する

【目的】四国地区の大学及び高等専門学校連携・協働により、  
地区内のFD/SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図る



1. SPOD共通事業

1-1)SPODフォーラムの実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校教職員数)		
③参加校数(実数)		
④満足度		
1-2)SPOD内講師派遣の実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校教職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		

- 1-3)FD・SDに関する調査・研究
- 1-4)SPOD将来構想ワーキンググループ
- 1-5)情報提供サービス
  - ・研修プログラムガイドの発行
  - ・SPOD活動報告書の発行
  - ・SPODホームページの管理・更新
  - ・メールマガジンの発行

SPODホームページ	達成度 (5段階)	前年度比(%)
トップページ等閲覧数		
PDF資料等ダウンロード数		
※H30.4.1～H31.2.28の数値		

2. FD事業

2-1)FD担当者研修の実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校教職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		
※SPODフォーラムで実施		
2-2)新任教員研修の実施・公開	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校教職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		

- 2-3)ティーチング・ポートフォリオ作成WSの実施・公開
| ①プログラム数 |  |  |
| ②参加者数(定員・加盟校教職員数) |  |  |
| ③参加校数(延べ・実数) |  |  |
| ④満足度 |  |  |

2-4)各種FDプログラムの開発・実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校教職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		
(実施予定)		

3. SD事業

3-1)大学・社会人としての基礎力養成プログラムの実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		
3-2)次世代リーダー養成ゼミナールの実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		

- 3-3)職員のための講師養成講座の実施
| ①プログラム数 |  |  |
| ②参加者数(定員・加盟校職員数) |  |  |
| ③参加校数(延べ・実数) |  |  |
| ④満足度 |  |  |

3-4)各種SDプログラムの開発・実施	達成度 (5段階)	前年度比(%)
①プログラム数		
②参加者数(定員・加盟校職員数)		
③参加校数(延べ・実数)		
④満足度		
3-5)SPOD-SDGの輩出	達成度 (5段階)	前年度比(%)
新規認定者数		
※認定者 合計25名(H31.2.28時点)		

4. SPOD運営

- 4-1)各種会議の実施
  - ・総会
  - ・ネットワーキング運営協議会
  - ・事業評価委員会
  - ・監査
  - ・その他 FD/SD分科会
- SPOD加盟校員内会議

(表の奥方) ※詳細な数値は別冊参照

番号	目標値	実績	単位	達成度 (5段階)	達成率 (%)	前年度比 (%)
①	連携者数 プログラム数	実施プログラム数	件			
②	定員数 加盟校数	参加者数(延べ数)	人			
③	SPOD加盟校数	参加校数(延べ数)	法人			
④	満足度 目標率	事後アンケート満足度	%			

達成率  
5:90%以上  
4:80%以上  
3:70%以上  
2:60%以上  
1:60%未満

実績  
目標値

H30年度  
達成率  
H29年度  
達成率

※1.令和元年度学校基本調査(R1.5.1現在)の常勤教職員



## 平成30年度SPOD事業の評価について

SPODでは、毎年度事業評価を行い、次年度の事業に活用することとしている。

このたび、平成30年度事業について、「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会委員から活動報告書及びヒアリングをもとに評価をいただいた。

各委員からは、SPOD事業の定量的指標達成度一覧により各事業の重み付けを視認できる点や、加盟校への波及効果が見られた点等について高い評価をいただいた。一方で、教育実践成果の累積検証や、引き続き私立大学加盟校の参加、ステークホルダーへの発信を促す取組を行うことが求められた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

## 【1】活動計画及び活動実績について

## ①共通事業

(強み)

## 【SPOD フォーラム】

・本年度の香川大学での開催をもって四国4県全てでの開催が実現された。どの県で開催しても極端な差がなく参加者を得ている状況は、今後の持続的な県をまたいでローテーション開催に弾みがついたものと思料する。

## 【SPOD 内講師派遣プログラム】

・年1回の講師無料派遣が誘引する形で受講者も年々増加し、複数回開催希望大学も増加する等、特に小規模校を始めとして有効に制度利用されている。可能な範囲での更なる制度の充実に期待する。

## 【研修プログラムガイド】

・冊子版からリーフレット版に変更されたが、受講者はむしろ増えている状況であり、その一方でプログラム概要情報の早期提供、関連情報のホームページ検索機能強化、及び経費節減が実現できている。今後、SPOD内委員会資料など、工夫次第では更なるペーパーレス化が期待できる。

(弱み)

特になし

## ②FD

(強み)

## 【新任教員研修】

・コア校間でのプログラム標準化が図られ年5回も開催されている。どの会に参加しても同様の効果が得られるとされており、他地域に類を見ない優れた取組みである。今後、参加を義務付ける大学の出現などエピソードを積み上げていけば、その波及効果は大きいのではないかと。

## 【私立大学等】

・私立大学等改革総合支援事業では、IR等具体的な項目に係る取組状況がポイントとして計算される仕組みになっているため、同事業に記載されている内容をSPODの研修プログラムに組み込んでいってどうか。このような政策動向を考慮した研修プログラムを計画することにより、需要に応じたプログラム実施ができるのではないかと。

・同事業における評価項目などに「ティーチング・ポートフォリオの作成」が取り上げられているため、「ティーチング・ポートフォリオ」に対する需要が今後SPOD内外で増えていくことが予想される。ただ、現在実施している2日間または3日間のワークショップスタイルではコストがかかりすぎるため、まずはSPODフォーラムにおいて簡易版のプログラムを実施し、徐々にSPOD加盟校全体に広げていくことを考えてみても良いのではないかと。

・FD事業が、単なるSPODの請負事業ではなく、ネットワークコア校を中心にして協働でプログラムを作成し、FD担当者研修を行うなど、各大学での取り組みを支援する役割を果たしている点は大きな強みだと考える。事業単位でも、多彩なプログラム、たとえば、新任教員研修やティーチング・ポートフォリオなど、現場のニーズに合わせたプログラムを取り入れている点も大きな強みである。

(弱み)

・専任教員、嘱託講師の別に関わらず教員として授業を担当するという観点から言えば、可能な範囲で嘱託講師にもプログラムが開かれていることが望ましい。(すでに実現されているのであれば、放念ください。)

・弱みとは言えないが、今後の課題として、FDを受けた教員が、教育実践の中でどのような成果があったのか、何らかの形で累積しておく必要はないだろうか。例えば、教育活動実践報告とか学生による授業アンケートの改善報告というようなことは想定できないだろうか。

### ③SD

(強み)

・「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ～Ⅲ)」、「次世代リーダー養成プログラム」、「SPOD-SDCの認定」と段階的なステップアップの道筋が示され、SPOD内での講師養成、SPOD加盟校におけるSDの実践的指導者の獲得が強く意識されている。

・調査研究において、例えば「次世代リーダーは本当にリーダーになったのか?」をテーマに次世代リーダー養成ゼミナールの効果検証を実施してはどうか。次世代リーダー養成ゼミナール修了生がどこまで所属組織の管理運営に関与できているのか等を行動変容の観点から検証していきたい。

・大学コンソーシアム京都の研究公募の事例を参考にしつつ、SPODにおいても希望者が資金的サポートを得て調査研究を行えるように考えてみても良いのではないかと。

・社会へのアプローチとしては、「四国の大学での学びの魅力」について対関東・対関西向けメッセージを発信してはどうか。例えば、以前は、次世代リーダーの修了生を中心に、「四国で学ぼうキャンペーン」を仕掛けてはどうかというアイデアを出したことがある。「4年間過ごすのであれば教育資源に溢れた四国で」ということで、課題が山積する四国地方の課題解決に取り組む各大学のプログラムをピックアップして発信すればよいのではないかと。学生、教員と一緒に取り組めるものであり、わかりやすく四国の大学のパワーをアピールできるのではないかと。

このキャンペーンには企業や行政を巻き込むのもよい。優秀な学生が四国に定着することは、企業にとっても魅力になると考えられる。スポンサーとして協賛金を出してくれる可能性もある。都心の大規模私立大学等と協定を結び、学生を相互交流させる仕組みも作れるとよい。双方にメリットがある取組みである。産業界へのアピールという点では、政策動向も踏まえつつ、今後は実務家教員育成を検討していくこともあり得る。

・参加者数やプログラム数等の目に見える指標だけでなく、社会にどのような影響を与えているか、という「ソーシャルインパクト」の観点で指標を設けておくことは、その組織の強みとして活用できる点が魅力である。例えばマスコミに取り上げられた事例や聖カタリナ大学の事例等をエピソードとして集めていってはどうか。あるいは高校教員へのヒアリングもひとつのアイデアである。組織開発の点では、何を指標にするのが難しいところであるが、考えてみる価値はあると思われる。

・少なくとも、事務職員としての初級・中級レベルのSDプログラムを網羅している点では大きな強み。また、次世代リーダー養成プログラムや講師養成を同時並行して行い、事業の持続的発展が可能にしている点も大きな強みである。

(弱み)

・弱みという訳ではないが、SPODのスケールメリットを活かした諸事業は、今や小規模加盟校にとって欠かせない事業となっており、その意味からも、今後更に私立大学からの次世代リーダー養成ゼミナール修了生やSPOD-SDC認定者の輩出が望まれる。

・これも弱みとは言えないが、SPODのSD事業の受講者たちが、その後の業務実践の中でどのように生きたのか、検証することはできないか。評価委員会でも意見が出ていたように、次世代リーダー養成プログラムを受講した人たちが、その後どのようになっていったのかを検証することもそろそろ検討していけないだろうか。

・上級レベルのSDプログラムとして、大学院問題は具体的検討の視野に入っていないが、数大学が連携した取り組みとして検討を開始してはどうか。

#### ④組織運営等

(強み)

・文部科学省戦略的大学連携支援事業の採択を契機としてFD/SDに特化した四国地区大学間連携組織として設立され、平成23年度からの自主運営体制にもスムーズに移行でき、本年度で10周年を迎えている。

・四国地区という広域での大学間連携組織であるにもかかわらず、そのスケールメリットを活かした質の高い諸取組が展開され、本年度も新設2大学(2学部)が加盟、1専門職大学が申請中であるなど、着実な評価を受けている。

・総会を最高決議機関としつつ、毎月開催のネットワークコア運営協議会においてSPOD事業に関わる企画立案等が着実に議論・検討されている。加えて、必要な調査研究事項がFD・SD両専門部会に付託され、事業評価委員会から客観的な評価を聴取する等、それぞれの会議等が連携されつつ機能している。

・まずは、第一の節目である設立10周年を迎え、ここまでSPOD事業を続けてこられたことに対して、関係者の皆様に敬意を表するとともに、この10年目の年を再出発の年と位置づけ、既存事業の見直しを含めSPOD事業をさらに推進していただくことを期待する。

・聖カタリナ大学のホビノ・サンミゲル学長による「SPOD設立10周年記念講演会」での講演内容は、正にSPODの「O=organizational」の部分、すなわち「組織開発」が実施できている好事例であり、こうした大学がSPOD内に出てきたことは、SPODの大きな成果と言える。

・SPODは、FDとSDを併せて実施している貴重な取組であるため、全国に向けた発信だけでなく、是非海外に向けた発信も検討していただきたい。

・四国のほとんどすべての高等教育機関が参加し、運営についても協働して行っていることは大きな強みである。

・事務局の仕事については、単に正確な事務を行うレベルではなく、たとえば、各プログラムの講師の講義レベルの質保証をするために、講師に対して的確な書類作成の指示やタイミングを計った督促などを行うなど、SPOD 事業全体の品質維持・向上に大きな役割を果たしていることは大きな強みで。

(弱み)

・四国地区の私立大学は、他地域に比較して相対的に少ないとは言いながら、ネットワークコア校に参加できるまでに至っていないことは、弱みになっているのではないかと考える。今後の大学を取り巻く環境を踏まえると、私立大学の経営や運営はますます困難になると考えられ、教職員の能力開発は益々必要となるため。

## 【2】次年度実施に向けての提案

・SPOD の「OD=Organizational Development」の部分、即ち、学長を始めとして大学をリードする立場にあるメンバーが、「組織開発」をマネジメントしていくことに着眼したプログラムを強化すればよいのではないかと考える。

・私立大学等改革総合支援事業の採択を得るためにポイントが付されて具体的に示されている取組のうち、SPOD フォーラムを含む SPOD 事業として取り上げるべき項目を精査し、プログラム化することが求められているのではないかと考える。具体的には、【タイプ1（教育の質的転換）】における「IR 機能の整備」、「カリキュラム・コーディネーターの参画」、「ティーチング・ポートフォリオの作成」に資する取組あたりが該当か？

・「SPOD フォーラム 2018」参加者からの要望からも明らかのように、開講してほしいプログラムとして、障がい学生支援、学生とのコミュニケーションの取り方、ピアサポート体制の構築など、「学生支援・学生対応」に関するニーズが大きい。

・今後、四国地区を含めて大学が直面する大学運営の厳しさにどう向き合うかの観点からは、SPOD が 10 年の歴史と実績を積み重ねてきたその卓越性を、四国内外の入口段階のステークホルダー（高校生、高校教員、高校生父母、受験産業）や出口段階のステークホルダー（企業、行政等）に発信しない手はないと考える。

・特にありません。これまでの経験を踏まえてブラッシュアップしていただければと思います。

## 令和元年度(2019年度)SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

2019/5/20現在

(開催日順)

県名	大学等名	プログラム名	対象	日程	講師担当校	講師名
香川	香川短期大学	危機管理ケーススタディによる、学生支援体制の構築	学内のみ	2019年6月4日(火) 16:30～19:00	阿南工業高等専門学校	坪井 泰士
愛媛	新居浜工業高等専門学校	アクティブラーニング実践(だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション)	学内のみ	2019年6月5日(水) 14:30～16:00	愛媛大学	竹中 喜一
徳島	徳島工業短期大学	事例から考えるハラスメント	SPOD 加盟校	2019年6月7日(金) 13:30～15:30	愛媛大学	吉田 一恵
徳島	阿南工業高等専門学校	後輩の成長を促すコーチング	学内のみ	2019年6月13日(木) 14:00～16:00	愛媛大学	村田 晋也
高知	高知工科大学(高知公立大学法人)	教学IRデータを適切に取り扱う	学内のみ	2019年6月19日(水) 13:00～15:30	愛媛大学	竹中 喜一
愛媛	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	教学IR入門	学内のみ	2019年6月20日(木) 15:00～17:00	愛媛大学	竹中 喜一
高知	高知大学	障がいを有する学生の理解と支援	SPOD 加盟校	2019年6月26日(水) 13:10～14:40	愛媛大学	野本 ひさ
愛媛	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	学内のみ	2019年6月26日(水) 15:00～17:00	愛媛大学	仲道 雅輝
香川	香川大学	クレーム対応実践	SPOD 加盟校	2019年7月5日(金) 13:30～16:00	愛媛大学	吉田 一恵
香川	香川高等専門学校	タイムマネジメント入門	SPOD 加盟校	2019年7月23日(火) 14:00～15:30	愛媛大学	大本 盛嗣
徳島	鳴門教育大学	クレーム対応実践	徳島内の SPOD加盟校	2019年7月25日(木) 午後	愛媛大学	吉田 一恵
愛媛	弓削商船高等専門学校	クレーム対応実践	学内のみ	2019年8月1日(木) 13:30～15:30	愛媛大学	吉田 一恵
高知	高知学園短期大学(学校法人高知学園)	現代学生の理解と関わり方	SPOD 加盟校	2019年8月20日(火) 14:00～17:00	香川大学	小坂 有資
愛媛	人間環境大学 松山看護学部	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	学内のみ	2019年8月下旬～9月上旬	愛媛大学	竹中 喜一
徳島	四国大学・四国大学短期大学部	危機管理ケーススタディによる、学生支援体制の構築	SPOD 加盟校	2019年9月2日(月) 10:00～11:30	阿南工業高等専門学校	坪井 泰士
徳島	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 (徳島キャンパス)	アクティブラーニング実践(だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション)	SPOD 加盟校	2019年9月2日(月) 13:30～15:00	愛媛大学	仲道 雅輝
愛媛	今治明德短期大学	現代学生の理解と関わり方	学内のみ	2019年9月5日(木) 10:30～14:00	愛媛大学	野本 ひさ
愛媛	愛媛大学	アクティブラーニング実践(成功のためのアイスブレイキング)	SPOD 加盟校	2019年9月19日(木) 13:30～15:30	徳島大学	吉田 博
愛媛	環太平洋大学短期大学部	教職員のための危機管理	学内のみ	2019年9月20日(金) 13:00～15:00	愛媛大学	吉田 一恵
愛媛	岡山理科大学 獣医学部	大人数講義を魅力的にするテクニック	学内のみ	2019年9月20日(金) 15:00～16:30	愛媛大学	小林 直人
高知	高知工業高等専門学校	アクティブラーニング実践(だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション)	SPOD 加盟校	2019年9月20日(金) 午後	愛媛大学	仲道 雅輝
香川	香川県立保健医療大学	アクティブラーニング実践(だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション)	SPOD 加盟校	2019年9月24日(火) 13:00～15:00	愛媛大学	仲道 雅輝
徳島	徳島大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	SPOD 加盟校	2019年11月12日(火) 13:15～16:15	愛媛大学	阿部 光伸
愛媛	愛媛県立医療技術大学	アクティブラーニング実践(だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション)	学内のみ	2019年12月25日(水) 16:20～17:50	愛媛大学	野本 ひさ
香川	高松大学・高松短期大学	(調整中)	学内のみ			





## 2019年度 第32/33回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

## 1. 主催

- 第32回 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）  
 第33回 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

## 2. 期日

- 第32回 2019年6月29日（土）～6月30日（日）いまばり湯ノ浦ハイツ（宿泊研修）  
 第33回 2019年9月4日（水）～9月5日（木）愛媛大学城北キャンパス（通い型）  
 （同じ内容ですのでどちらか一方にご参加ください。）

## &lt;第32回&gt;

集合・出発時刻 1日目 7:50 愛媛大学城北キャンパス正門前集合  
 8:00 出発（マイクロバスで移動）

※現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。

解散時刻 2日目 14:00 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

## &lt;第33回&gt;

集合・開始、終了時刻 1日目 8時50分集合、9:00開始、19:30終了予定（交流会含む）  
 2日目 8時50分集合、9:00開始、16:00終了予定

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

※上記日程でご都合が合わない方は、徳島大学、香川大学、高知大学においても同様の研修を実施しておりますので、そちらの研修にご参加ください。（詳細は13に表示）

## 3. 場所

<第32回>いまばり湯ノ浦ハイツ

〒799-1525 愛媛県今治市湯ノ浦23番地 電話 0898-48-2000

URL: <http://www.yunoura-h.or.jp/>

<第33回>愛媛大学城北キャンパス

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

<http://www.ehime-u.ac.jp/access/johoku/index.html>

## 4. 参加対象者（一度参加した者は除く）

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験5年以上を除く）
- 2) 愛媛大学テニユア育成教員
- 3) その他参加を希望する教員（非常勤講師を含む）

## 5. 定員

<第32回>20名程度

<第33回>20名程度

## 6. 実行委員

弓削 俊洋（実行委員長、教育・学生支援機構長）  
 中井 俊樹（教育企画室教授）  
 村田 晋也（教育企画室講師）  
 和田 欣也（教育企画チーム）

小林 直人（学長特別補佐、教育企画室長）  
 仲道 雅輝（教育企画室講師）  
 竹中 喜一（教育企画室講師）

## 7. 目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

## 8. 目標

- 1) 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
- 2) さまざまな授業方法の特徴を理解し、学習目標に適した授業方法を選択できる。

- 3) 教育評価の原理と種類を理解し、学習目標に適した評価方法を選択できる。
- 4) アクティブラーニングを取り入れた 90 分の授業の計画を作成できる。
- 5) 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。

## 9. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部 of 教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。
- 4) 全員が 10 分間の模擬授業を行います。

## 10. その他

- 1) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 2) 参加費として、第 32 回（6 月実施）は、14,000 円（宿泊費、食費、交流会費など）、第 33 回（9 月実施）は、5,000 円程度（食費、交流会費など）を当日会場で徴収します。詳細は後日お知らせします。  
なお、ご都合により参加できなくなる場合は、1 週間前までに必ずご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費をご負担いただくことがあります。
- 3) 第 32 回（6 月実施）に参加する愛媛大学の教員は、出張扱いとなります。出張にかかる経費については、各部署の総務チームにお問い合わせください。なお、宿泊先の部屋数の都合上、宿泊は相部屋となりますのでご了承ください。また、愛媛大学正門から会場までのマイクロバスを運行しますので、ご利用ください。
- 4) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行いますのでご了承ください。
- 5) 修了証書は、全日程に参加された方のみ授与されますので、あらかじめご了承ください。
- 6) お申し込み後、事前アンケートをお願いすることになりますのでご協力お願いいたします。

## 11. お申し込み・問い合わせ

参加申込書（様式 1）によりお申し込みください。

<愛媛大学申し込み・問い合わせ先>

E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 竹中・仲道)

## 12. プログラム日程

○第 32 回（6 月実施）スケジュール

9:15 現地到着

### 1 日目 プログラム日程

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:00	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:00-11:00	(3) ミニ講義Ⅰ「コース設計&クラス設計」 ・1 科目（コース）の授業計画の立て方 ・90 分授業の基本構成 ・90 分（クラス）の授業計画
11:00-11:10	休憩
11:10-12:10	(4) ミニ講義Ⅱ「シラバスの書き方&学習評価の基本」 ・目標設定 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象

12:10-13:10	集合写真撮影・昼食・休憩
13:10-15:10	(5) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・シラバス作成 ・目標設定 ・1科目(コース)の授業計画の立て方
15:10-16:00	(6) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 8分
16:00-17:00	(7) ミニ講義Ⅲ「学習者の学びを促進する様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業
17:00-18:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・授業計画案作成
18:00-18:30	チェックイン、移動、休憩
18:30-20:00	夕食・交流会
20:00-21:30	(9) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成
21:30-	自由時間・お風呂・お悩み相談
※シラバス&授業計画案の提出(～21:30まで)	

## 2日目 プログラム日程

時刻	内容
7:30-8:30	朝食
8:30-10:00	(10) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・模擬授業の練習
10:00-12:00	(11) 模擬授業 ・模擬授業 10分 ・討議・検討 15分
12:00-12:30	(12) 閉会式 ・グループ作業の振り返り学んだことは何か?(どう実践に活かすか?) ・大学教員としての今後の質向上 ・修了証書授与 ・閉会の言葉
12:30-13:30	昼食

### 13:45 現地出発予定

※内容等予定は変更になる場合がございます。

○第33回（9月実施）スケジュール

**1日目 プログラム日程**

時刻	内容
9:00-9:10	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:10-9:30	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
9:30-10:30	(3) ミニ講義Ⅰ「コース設計&クラス設計」 ・1科目（コース）の授業計画の立て方 ・90分授業の基本構成 ・90分（クラス）の授業計画
10:30-10:40	休憩
10:40-11:40	(4) ミニ講義Ⅱ「シラバスの書き方&学習評価の基本」 ・目標設定 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
11:40-12:00	(5) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・シラバス作成 ・目標設定 ・1科目（コース）の授業計画の立て方
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-15:00	(5) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」（つづき） ・シラバス作成 ・目標設定 ・1科目（コース）の授業計画の立て方
15:00-16:00	(6) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 8分
16:00-17:00	(7) ミニ講義Ⅲ「学習者の学びを促進する様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業
17:30-19:30	交流会

※宿題：シラバス&授業計画案の作成（3時間程度）

**2日目 プログラム日程**

時刻	内容
9:00-9:20	(8) 振り返り・質疑応答

9:20-11:00	(9) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・授業計画の立て方 ※シラバス&授業計画書の提出 (11:00 まで)
11:00-12:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・授業の練習
12:00-13:00	昼食・休憩
13:00-15:30	(11) 模擬授業 ・模擬授業 10分 ・討議・検討 15分
15:30-16:00	(12) 閉会式 ・振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・大学教員としての今後の質向上 ・修了証書授与 ・閉会の言葉

※昼食はお弁当（500円/日）を準備いたします。

※1日目の交流会はできる限りご参加ください。

### 13. 他大学における新任教員プログラムのご案内

- 1) 愛媛大学「授業デザインワークショップ」及び以下の徳島大学、香川大学、高知大学で開催されている新任教員プログラムは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)内で標準化されており、どのプログラムを受講しても同様の効果を得ることができます。
- 2) 以下のプログラムの受講を希望される方は各大学申し込み先にご連絡ください。
- 3) 以下のプログラムは、愛媛大学テニユア教員育成制度におけるPD認定プログラムとして認定されています。受講する際は、別途、旅費等が必要になります。

#### ◆徳島大学「授業設計ワークショップ」

【日程】8月22日(木)～8月23日(金)

【会場】徳島大学常三島キャンパス

【申し込み先・問い合わせ先】

徳島大学学務部教育支援課教育企画室

TEL：088-656-7686

E-mail:kykikakuc@tokushima-u.ac.jp

#### ◆香川大学「よりよい授業のためのFDワークショップ」

【日程】9月12日(木)～13日(金)

【会場】休暇村讃岐五色台(香川県坂出市)

【申し込み先・問い合わせ先】

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ

TEL：087-832-1153

E-mail:gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

#### ◆高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」

【日程】9月3日(火)～4日(水)

【会場】高知大学朝倉キャンパス

【申し込み先・問い合わせ先】

高知大学学務部学務課

TEL：088-844-8144

E-mail:y-spod@kochi-u.ac.jp